

「短歌を味わい、短歌集をつくろう！」

本単元で育成する資質・能力

主体性・情報活用能力

1 単元について

(1) 生徒観

本学級の生徒の教科学力面については、昨年度3学期に実施した標準学力調査では正答率が74.4%（全国72.5%）であった。基礎的な知識・技能は概ね身に付いている生徒が多い。

短歌や俳句といった日本の伝統的な定型詩については、小学校で既習である。また、中学校でも1年時に詩を学習している。詩のさまざまな表現をもとに自由に想像することはできるが、短く抽象性の高い言葉から情景や作者の心情をイメージしたり、お互いのイメージを擦り合わせて深めたりする力は十分ではない。そこで、「C 読むこと」の指導事項「ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。」「ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。」の力を身に付けさせたいと考える。なお、本時で扱う正岡子規、与謝野晶子、石川啄木の3人の歌人については、教科書で代表歌各1首が取り上げられている。

(2) 単元観

本単元は、「中学校学習指導要領」国語科 第2学年の「C 読むこと」の指導事項「ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。」「ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。」を受けて設定するものである。

ここで取り上げるのは近現代の短歌である。古くから日本で親しまれてきた伝統的な詩形である短歌や俳句は、現代の生活にも根付いており、五・七・五等の定型のリズムは日常的に目や耳にするものである。一方、字数（音数）が限られている上に、用いられる言葉自体も難しいため、中学生には、情景や心情がイメージしにくい場合も多く、逐語訳的な意味の理解では、表面的な解釈に終わるおそれもある。短歌を十分に味わうためには、歌が詠まれた背景をふまえて読むことが重要である。また、その作者ならではの「歌風」が表れるものでもある。したがって、「心情を表す語句などに注意して読むこと」「根拠を明確にして自分の考えをまとめること」といった本単元で身につけさせたい力を指導するために適した題材であると考えられる。

(3) 指導観

指導に当たっては、次の点について留意する。

①第1次では、協調学習の手法である知識構成型ジグソー法を用いて、複数の資料から短歌の作者を推理させる学習課題を設定する。エキスパート活動では、3つの資料から、それぞれの歌人がどのような人物であったのか、またどのような特徴の歌を残したのかを読み取らせる。ジグソー活動では、短歌の作者が「選択した歌人である理由」だけでなく、「他の歌人ではない理由」についても話し合わせたい。これらの学習が、歌に込められた情景や心情をより豊かに想像し、短歌をより深く味わうことにつながると考える。

②第2次では、自分の好きな短歌を取り上げて鑑賞文（批評文）を書かせる学習活動を設定し、紹介し合わせる活動を行う。短歌の一つ一つの言葉から、「いつ・どこで・だれが・何を・どのように」している情景なのかをイメージし、作者の心情を想像させたい。そして、短歌の内容や表現の仕方を評価することで、短い言葉に込められた情景や心情をより深く味わうことができると考える。

③単元のまとめとなる第3次では、一人一人に短歌を詠ませ、相互評価させて短歌集にまとめる。自分で詠むことを通して、詠みたい情景や心情を表現するためにふさわしい語句を探し吟味させたい。また、互いの作品を評価し合い、さらに表現を高めさせたい。このように、自分で「詠む」体験、他の人の作品を評価する体験が、言葉を手がかりに短歌をより深く味わって「読む」ことにつながると考える。

2 単元の目標

○短歌に関心を持ち、短歌の中の言葉を手がかりに想像を働かせながら読み味わおうとする。
(国語への関心・意欲・態度)

○短歌の心情を表す語句や表現の仕方に注意して読み、情景や作者の心情を想像し短歌を味わう。
(C読むこと(1) ア)

○さまざまな短歌を読み、作品の特徴や好きな理由を明確にして自分の考えをまとめる。
(C読むこと(1) ウ)

○短歌の学習を通して情景や心情を表現するための語彙を増やし、語感を磨く。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1) イ(イ))

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
① 短歌に関心を持ち、短歌の中の言葉を手がかりに想像を働かせながら読み味わったり、学習したことを生かして自分の作品を詠もうとしたりしている。	① 短歌の心情を表す語句や表現の仕方に注意して読み、情景や作者の心情を想像し短歌を味わっている。(ア) ② さまざまな短歌を読み、作品の特徴や好きな理由等を明確にして文章にまとめている。(ウ)	① 短歌の学習を通して、情景や心情を表現するための語彙を増やし、語感を磨いている。(1) イ(イ)

4 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本校が育成したい資質・能力は、①情報活用能力 ②主体性 ③自らへの自信 の3つである。

本単元では、心情を表す語句などに注意して読むことと、根拠を明確にして自分の考えをまとめることを主眼にしている。協調学習の手法である知識構成型ジグソー法を用いて、3つの資料と短歌の表現を照らし合わせて情景や心情を想像することで「①情報活用能力」を育成することができる。また、互いの作品を評価し合い表現を練り直すことを通して「②主体性」を育成することができる。

資質・能力	本単元でめざす生徒の姿
情報活用能力	資料から必要な情報を取り出し、短歌の語句と照らし合わせて情景や心情を考えることができる。
主体性	自分の考えや感じたことを進んで伝えようとする。また、他の人の意見をもとに、さらに考えたり表現を練り直したりしようとする。

5 指導と評価の計画（全7時間 本時は2／7）

次	時	学 習 内 容	評 価	
			評 価 規 準・【評価方法】	資質・能力 の評価
1	1	課題の設定 「短歌を味わい、短歌集を作ろう」 ○短歌と身近な歌の歌詞を比べ、違いや共通点を見つけ、短歌の学習への目的意識を持たせる。 ○学習課題をつかみ、学習の見通しを持つ。	○短歌に関心を持ち、短歌の中の言葉を手がかりに想像を働かせながら読み味わおうとしている。 （国語への関心・意欲・態度） 【行動の観察】	
		情報の収集 整理・分析 ○作者の生き方や表現の特徴をもとに短歌を解釈する。（知識構成型ジグソー法）		
2	3	情報の収集 整理・分析 ○教科書の短歌を音読し、大まかな歌意をとらえる。	○短歌の心情を表す語句や表現の仕方に注意して読み、情景や作者の心情を想像し短歌を味わっている。（読むこと ア） 【行動の観察・記述の分析】	
	4・5	整理・分析 まとめ ○好きな短歌を選び、鑑賞文を書く。 ○鑑賞文を交流する。	○短歌の心情を表す語句や表現の仕方に注意して読み、情景や作者の心情を想像し短歌を味わっている。（読むこと ア） 【行動の観察・記述の分析】 ○さまざまな短歌を読み、作品の特徴や好きな理由等を明確にして鑑賞文にまとめている。（読むこと ウ） 【行動の観察・記述の分析】	①情報活用能力

3	6	創造・表現 ○短歌を創作する。	○短歌に関心を持ち、学習したことを生かして自分の作品を詠もうとしている。 (国語への関心・意欲・態度) 【行動の観察・記述の分析】	
	7	まとめ・振り返り ○創作した短歌を評価し合う。 ○短歌を練り直し、振り返りを行う。	○短歌の学習を通して、情景や心情を表現するための語彙を増やし、語感を磨いている。 (言語についての知識・理解・技能イ(イ)) 【記述の分析・自己評価・相互評価】	②主体性

6 本時の学習指導（第2時/全7時間） **協調学習（知識構成型ジグソー法）の手法を用いて実施**

(1) 本時の目標

○短歌の心情を表す語句や表現の仕方に注意して読み、情景や作者の心情を想像し短歌を味わうことができる。

(2) 本時の評価規準

○短歌の心情を表す語句や表現の仕方に注意して読み、情景や作者の心情を想像し短歌を味わっている。
(読むこと(1)ア)

(3) 準備物

ホワイトボード、資料A・B・C、ワークシート、掲示用写真

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項 ◆支援	評価規準 【評価方法】	資質・能力の 評価
○既習内容を確認し、本時のねらいと学習課題を確認する。	◇前時の学習を想起させる。(前時、課題となる短歌の情景や作者の心情を予想し書かしておく。)		
目 作者の人物像や「作風」から、短歌に込められた情景や作者の心情を想像し説明しよう。			
課 この短歌は誰の作品でしょうか。また、それはなぜですか。説明しよう。 瓶にさす 藤の花ぶさ みじかければ たたみの上に とどかざりけり			
○ エキスパート活動 ・3つのグループに分かれて資料を読み取り、歌人についてワークシートにまとめる。 ・課題の短歌が担当する歌人のものであるかを検討する。	◇3人の歌人に関する資料を読み取り、ワークシートにまとめさせる。 資料A 石川啄木の資料 資料B 与謝野晶子の資料 資料C 正岡子規の資料 ◇課題追究のために必要な情報(どのような人生を送った人か？ どのような歌をつくった人か？)を意識しながら読ませる。		

<p>○ ジグソー活動</p> <p>・3つそれぞれの資料から読み取った情報を交流し、作者はだれか、なぜそう考えるのかをまとめる。</p> <p>○ クロストーク</p> <p>・グループの意見を全体に発表する。</p>	<p>◇課題の短歌の内容や表現の特徴と読み取った情報を照らし合わせて作者か否かを考えさせる。</p> <p>◆机間指導を行い、読み取りが進まないグループには読み取る視点を絞らせるなど必要に応じて支援を行う。</p> <p>◇資料から読み取った情報を交流させた上でまず自分の考えとその理由を説明させる。</p> <p>◇仲間の考えを聞かせた上で、「なぜこの歌の作者なのか」「なぜこの歌の作者ではないのか」の両面から話し合うようにさせる。</p> <p>◇話し合いがまとまらない場合は、どの部分でまとまらないのか説明できるようにさせる。</p> <p>◇グループの答えとその理由をホワイトボードにまとめさせる。</p> <p>◇各グループが挙げた理由を比較し、質問させる。</p> <p>◇各理由を検討しながら、必要な理由を確認する。</p> <p>◇この短歌の特徴や情景・心情とのつながりを説明させる。</p> <p>◆まとまらない班や少数意見の班から発表させ、特徴や情景を確認しながら心情を考えさせるよう指導者がコーディネートする。</p>		<p>②主体性</p> <p>①情報活用能力</p>
<p>○ 振り返り</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・この短歌の作者は正岡子規です。この短歌は花瓶に挿した藤の花房という目の前の情景をありのままに描き、作者の思いを直接表す言葉はないという「写生」の特徴があるからです。また、藤の花房が畳に届かないことに気付くということから作者が病で床に横になって見ている様子が想像できます。花房の短さに自分の命を重ねているような作者の心情が感じられます。</p> </div>	<p>◇グループや全体での学びを自分の言葉でまとめさせる。</p>	<p>・短歌の心情を表す語句や表現の仕方に注意して読み、情景や作者の心情を想像し短歌を味わっている。</p> <p>【行動の観察・記述の分析】</p>	
<p>○次時の予告を行う。</p>			

* C o R E F平成27年度活動報告書 掲載

安芸太田町立加計中学校 相田健太郎教諭（当時）の指導案・教材をアレンジしたもの